

資料編

資料編

1. 印西市の緑の現況

2. 前計画の施策の実施状況

(1) 施策の取組状況の検証

前計画では、市民・企業・行政が連携して、ふれあいとうるおいのある緑豊かなまちをつくっていくために、5つの柱を立て22の施策を展開しました。

◆5つの柱の施策内容の概要

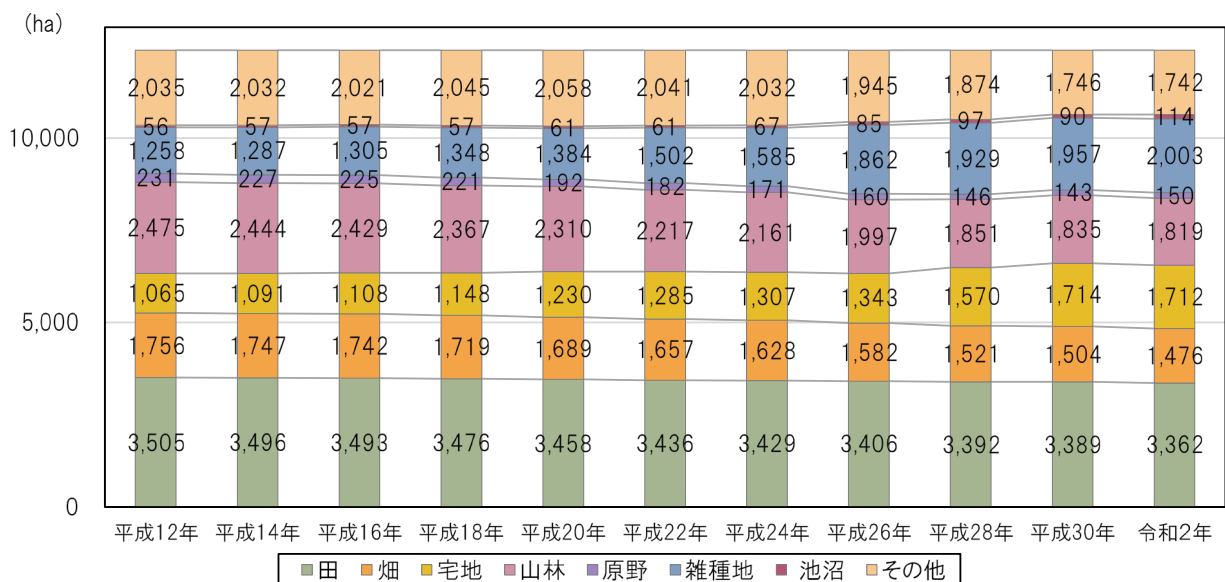
5つの柱	概要
里山の緑と歴史を守る	印西市の緑を特徴づける里山の樹林地、草地、農地、湧水、水路等の保全及び歴史的文化的環境の保全に係る施策を展開する。
まちに緑の拠点をつくる	公園緑地は都市の緑の中核をなすもので、自然環境の保全、安全で快適なまちづくりやレクリエーション活動の場の提供、優れた都市景観の形成など重要な役割を果たしている。公園緑地の整備を中心に、公共施設の付属緑地や民間施設緑地などの整備にかかる施策を展開する。
水辺を保全・修復し活用する	本市は、北側に手賀沼、利根川、将監川、南側に印旛沼につながる神崎川等の良好な水辺環境を有し、千葉県でも有数の豊かな水系を誇る地域である。この水辺環境を保全するとともに、より豊かな自然を有する水辺や親しみやすい水辺として修復し活用する施策を展開する。
花と緑の美しいまちをつくる	花と緑あふれる美しく快適なまちづくりのためには、行政だけではなく、市民や企業が役割を分担し、協力しあって緑化を進めることが必要である。公共公益施設の緑化をモデルとして、住宅地や向上、商店や事務所などの緑化を奨励するための施策を展開する。
市民・企業・市が連携して緑豊かなまちをつくる	都市緑化の気運を盛り上げ、市民・企業・市が一体となって緑化を推進していくための仕組みと活動の充実を図る。

基本方針1：里山の緑と歴史を守る

【取組施策】

- 県の千葉の里山・森づくりプロジェクトでリーディング事業に選定された武西地区の緑地を千葉県から引受け、市有地として確保しました。
- 木下万葉公園内での国指定の天然記念物である木下貝層の見学スペースの設置や市の指定文化財である小林の道作古墳群を歴史広場として整備することで、指定文化財の周知・活用及び文化財周辺の緑地の保全を図りました。
- 千葉ニュータウン内に残る史跡である泉新田大木戸野馬堀遺跡や掩体壕を緑地として確保することで史跡を保存しました。
- 各法令等に基づき農地や森林を保全しました。

地目別の土地利用面積の推移



【市内の現況】

- 令和2年の本市の地目上の土地利用は自然的な土地利用が市全域の55.9%であり、前計画策定時の平成12年と比較し8.9%減少しています。
- 市内の経営耕地面積2,840.7haのうち、515haが耕作放棄地となっており(平成27年)、平成12年から平成27年にかけて約9.3%増加しています。
- 指定文化財は、国指定が6件、県指定が17件、市指定が26件、国登録有形文化財が1件の計50件、そのうち天然記念物、史跡として10件が指定されています。



木下万葉公園



道作古墳群歴史広場



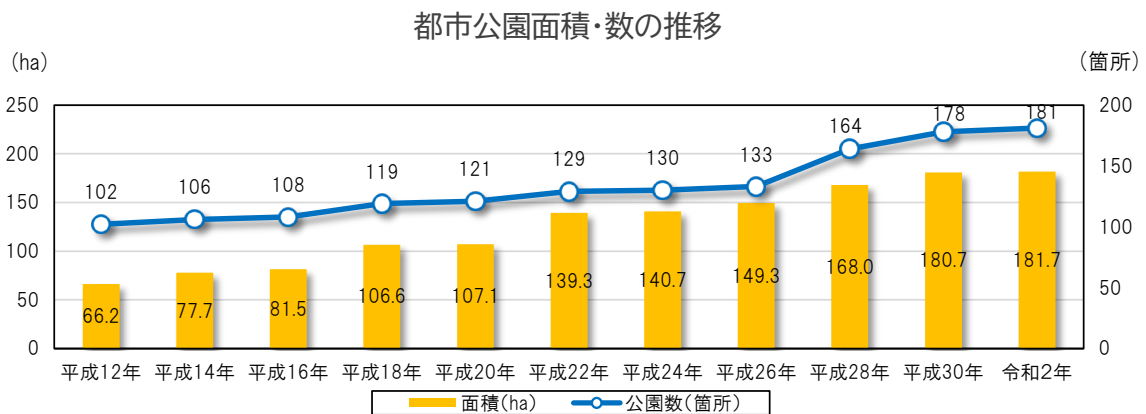
掩体壕

基本方針2:まちに緑の拠点をつくる

【取組施策】

- 松山下公園での総合体育館の整備や、木下万葉公園、木下交流の杜公園など自然、文化を活かした公園を整備しました。
- 千葉ニュータウン事業により整備された泉公園など45箇所の公園・都市緑地を開園しました。
- 公園以外でも、竹袋調整池や木下交流の杜広場、木下交流の杜フットサルパークなども整備しました。

【市内の現況】



- 令和2年4月の市内の都市公園は、181箇所、181.7haが整備され、市民1人あたりの公園面積は17.5㎡/人となっており、前計画策定時から約2倍に増加しています。これは、千葉ニュータウン事業の進展により計画的に公園が整備されたこと等により都市公園が大幅に増加したものです。
- 市全域における緑地は7,012.3ha(市全域の56.6%)であり、都市公園などの「施設緑地」が781.9ha(市全域の6.3%)、農業振興地域農用地区域などの「地域制緑地」が6,356.0ha(市全域の51.3%)となっています。



松山下公園



泉公園



木下交流の杜フットサルパーク

基本方針3:水辺を保全・修復し活用する

【取組施策】

- 手賀沼、印旛沼等の水辺で繁殖している特定外来種のナガエツルノゲイトウなどの駆除を市民団体との協働により実施しています。
- 別所緑地に、市民が気軽に水辺環境などを観察できるよう、デッキを設置しました。
- 弁天川、六軒川などでは、NPO団体が舟運事業を実施し、また、「木下河岸」などの調査・研究・啓発を市民団体との協働で実施しています。



ふるさといんざいがらり川めぐり



木下の蔵

【市内の現況】

- 自然環境調査の結果から、国・県等で指定されている希少性の高い注目種が確認されています。



アカシデ(注目種)



ヨシガモ(注目種)



オオモノサシトンボ(注目種)

- 特定外来生物は、ナガエツルノゲイトウやカミツキガメ、ブルーギルなどが多くの地点で確認されています。



ナガエツルノゲイトウ(特定外来生物)



カミツキガメ(特定外来生物)



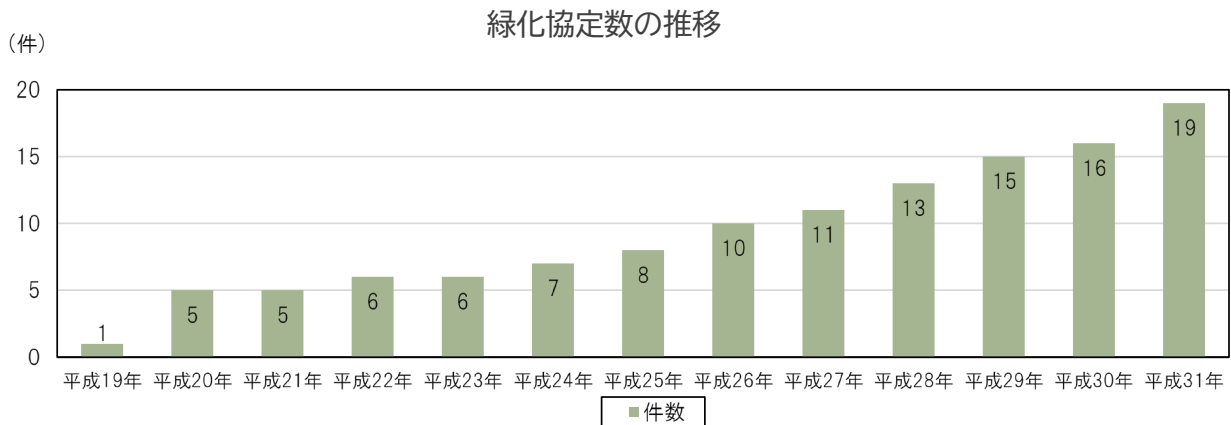
ブルーギル(特定外来生物)

基本方針4:花と緑の美しいまちをつくる

【取組施策】

- 市の花であるコスモスの種を配布し、学校等、市内各所で花を咲かせる取組を実施しています。
- ヒートアイランド現象の緩和が期待されるグリーンカーテンの苗を配布しており、また、グリーンカーテンコンテストを実施するなど、市民にグリーンカーテンを周知しています。
- 工場、事業所、住宅用地等を対象とした緑化協定が19件締結され、スマートハイムシティ印西牧の原地区において緑地協定が締結されました。
- 都市公園では、24団体が公園での清掃や花植えを実施し、別所谷津公園、竹袋調整池や道作古墳群では、市民団体との協働による管理を実施しています。
- 道路では、15の美化団体が清掃や花植えを実施しています。

【市内の現況】



- 市内での緑化協定は平成31年で19件あり、平成20年から4倍に増加しています。
- 現在、スマートハイムシティ印西牧の原地区において、緑地協定が締結されました。
- 小・中学校や市役所等の市内の公共施設では、庁内関係各課と連携を図り敷地内の緑化図っています。



印西市役所



グリーンカーテン



スマートハイムシティ
印西牧の原地区

基本方針5：市民・企業・市が連携して緑豊かなまちをつくる

【取組施策】

- 都市公園では、**24団体**が公園での清掃や花植えを実施し、別所谷津公園、竹袋調整池や道作古墳群では、市民団体との協働での管理を実施しています。（再掲）
- 千葉県から引受けた武西地区の緑地において市民団体と協働で管理を実施しています。
- 道路では、**15の美化団体**が清掃や花植えを実施しています。（再掲）

【市内の現況】

- 市によるウォーキングコースなどのマップの配布や、NPO団体によるウォーキング大会の実施など、緑の中を歩く機運を高めています。



ウォーキングコースマップ



別所谷津公園



管理された花壇の様子



美化活動の様子

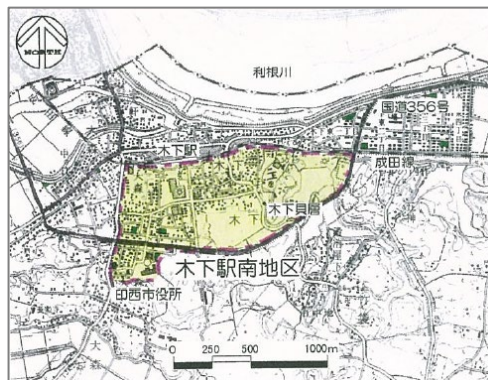
(2) 緑化重点地区への取組検証

「緑化重点地区」は、駅前など都市のシンボルとなる地区や緑が少ない地区、風致の維持が特に重要な地区、緑化の推進に対し住民の意識が高い地区などを対象に設定するものです。

① 木下駅南地区

【前計画策定時の地区概要】

- 駅前のシンボルとなる地区であるが、現在は緑が少ない。
- 地区の一部に土地区画整理事業の実施が予定されており、緑豊かなまちづくりの可能性が高い。
- 既成市街地の緑化モデル、土地区画整理事業による緑豊かなまちづくりのモデルとして、波及効果が期待される。



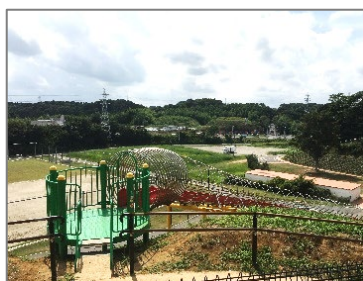
木下駅南地区 区域図

【取組施策】

- 四季を感じる歩行空間の整備として、木下南のメイン道路(市道14-003号線)に街路樹(ハナミズキ)を植栽し、幹線道路(市道00-008号線)に河津桜を植栽しました。
- 緑の拠点の整備として、木下万葉公園、木下交流の杜公園、木下南公園、木下交流の杜広場の整備を行いました。
- 花と緑のうるおいのまちづくりとして、木下駅南口駅前の緑化やイルミネーションを実施しました。



木下万葉公園



木下交流の杜公園

② 結縁寺の里山地区

【前計画策定時の地区概要】

- 本市の特徴ある緑の一つとして里山があげられるが、中でも結縁寺の里山は、自然性、歴史・文化性、景観、アクセス、管理状況などあらゆる点で優れた地区である。
- この里山の保全に積極的な市民グループがあり、地区住民と連携した施策展開の可能性が高い。
- 千葉ニュータウン区域及び松崎工業団地に隣接し、緊急に保全する必要がある、保全型の緑化重点地区のモデルとして最適である。



結縁寺の里山地区 区域図

【取組施策】

- 地区内で説明会及び先進地視察等を実施しました。
- 地域の人と先進地視察等を実施しました。
- 結縁寺門前の散策路を整備しました。
- (財)イオン環境財団、里地ネットワーク主催のイベントを開催しました。
- まちづくりファンドの助成を活用し、市民団体により、結縁寺に水洗トイレ・駐車場・案内看板が整備されました。



結縁寺



結縁寺のため池

3. 印西市緑の基本計画 検討の経緯

4. 用語集